

跋

ある日、NHKのBS3をぼんやりと眺めていたら、ブータン王国の話をしていて、GNH（グロス・ナショナル・ハピネス：国民総幸福量）を国王が提唱した国である。その国王のブレインの一人がその経緯の説明の中で、次の内容の主旨の発言をしていた。

「自分の幸福を求めるなら、まず自分以外の幸福を求めなさい」
「そして、自分以外の幸福の為に何かを行った瞬間」
「もうあなたは、幸福である」

はっとした。心に沁みた。こうあるべきだと思ったし、情けないとも思った。しかし、深く感銘している最中でありながら、腹が「グウ」と鳴ってしまった。「ああ、腹減った」と独り言を言う始末である。昔、ガツガツ食う友人を見て「お前は食うために生きているのか」と嘲笑していたが、自分のことであった。「俺は生きるために食う」と言っていた。猛省しなければならない。「最近、美味しい鮭食ってないなあ」、「美味しい鮭食いたいなあ」、「あっ！岩魚寿司食いに行こう」と上平村（現南砺市）へ出かけたのである。道中、自分の幸福を求めるなら…の言葉を反芻していた。これ（岩魚寿司）を石川県の人達に安価で提供したら喜ばれるのではないかと思ったのである。それ以降は119.イワナの項で述べたので省略する。そんな経緯で『いしかわ旬の鮭だより』を発起した。そして、それを普及する目的と、その全てを網羅する環境の整備とそれに携わる関係各位を啓発する（危機感を持っている方は少ないが）目的で拙著を上梓した訳である。そしてこの契機が県内の消費者を含めた農林水産業の全体最適に繋がることを心より祈念する。

「いしかわ旬の鮭だより」の事業化にあたり、その公共性がどれだけあるか、つまり本来の目的「A11石川を以って旬の季節感に満ち溢れた鮭の提供」以外に、事業としてどれだけ県内の皆様に役立つのか考察した。初めから以下の項目に適合するものを考えたのではなく、あくまで後付である。以下に貢献可能なキーワードを列挙する。

- ①食の安全・安心
- ②農山漁村の6次産業化
- ③新しい公共事業の1つ
- ④地産・地消
- ⑤食育、魚離れの解消
- ⑥安定した持続可能な雇用の確保
- ⑦地域振興 のと里山海道、無料化活用
- ⑧中山間地の有効利用
- ⑨休耕田・耕作放棄地の利用
- ⑩異業種交流・産官学連携
- ⑪新幹線開通後の名物の1つ
- ⑫消された・埋もれてしまった良き素材の復活と新たな素材の開拓

何れにしても、僅かなデメリットを盾に、消費者～生産者まで大きなメリットを得られる機会を逃す手は無い。当事業は、A11石川を以って推進すべきものであることに違いないと確信している。そして、多くの県民各位に共感・支持されると確信している。

おすしは誰のもの？石川の鮮魚介類は誰のもの？